



## 「イエス・キリストの福音の力」

～大きな苦しみが大きな喜びに変えられる～

「…その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起り、使徒以外の者はことごとく、ユダヤとサマリヤとの地方に散らされて行った。…ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べはじめた。…それで、この町では人々が大変なよろこびかたであった。」

使徒行伝8章1b,5,8節

弟子たちは、すでにイエス様がおられた時に、大迫害の預言をきいていましたので、今回、本当にひどい過酷な大迫害が起りましたが、慌てることなく、10000人以上もの信徒たちを主の御手に委ねることができました。エルサレムは大きな都でしたが、それでも、物凄い勢いで膨れ上がるクリスチャンたちをとどめていくことはできませんでした。彼らは、福音を携えて、旅から旅へと、当てもなく主に導かれるままに、大胆に主イエスの名を語りながら、また、与えられた賜物を大胆に用いて、神様の栄光を現していきました。

サマリヤ人とは宗教的、民族的な確執があり、全く交際をしていませんでしたが、イエス様がすでにその道を開いてくださいましたから、何の躊躇もなく、大胆にサマリヤの町の救いを実現していきました。主は約束通り共に働いて下さり、みことばに伴うしるし、奇跡を持って栄光を現してくださいました。

今の時代にも、希望を失って、うなだれるようにして生きている人々はいくらでもあります。そんな人々に、神の愛を、神の希望を届けることができます。

和歌山県の白浜という自殺の名所のある場所で牧会をされている藤藪庸一先生は、愛のある家庭に育ちましたが、小学校の頃、「あなたは神様に愛されています」と言われるのが嬉しくて教会に通い続けました。そして、自分自身を誰かのために捧げて生きていきたいと願われて、使徒行伝3章のペテロのように、たとえ金銀はなくても、自分にあるものをあげようと言って、足の不自由な男性に対して、信仰の宣言をして、立ち上がらせて歩かせたように、自分も苦しんでいる人、困っている人に、「神様はあなたを愛していますよ。大丈夫、助けてくださいますよ」と伝え、犠牲を払って助けの手を差し伸べることのできる人になりたいと願われて、現在「いのちの電話」での相談や、自殺志願者との共同生活を始め、自立を目指す支援活動を行ったり、自殺予防活動して子どもたちへの支援活動もされています。

私たちは皆、それぞれ、働きは違いますが、与えられている福音の力は同じです。その力に満ちた福音の希望を人々に届けていくことができるようにと願います。

来週の海の日(17日)は、この長野県東信地区の教会が立ち上がって、伝道会を開きます。多くの方々が主に出会い、希望を頂いて、その人生が変えられるように祈りましょう！